



日口交流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail:nichiro@nichiro.org

Home Page: http://www.nichiro.org

〒106-0041東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



マトリョーシカ絵付け教室に参加して

岩下 佳右

私がエレナ先生のマトリョーシカ絵付け教室に参加して、約一年が経過しました。初めて教室に参加した日の事を今でも思い出します。今回は私自身がマトリョーシカ絵付け教室に参加する事にした経緯と、先生のお人柄や普段の教室の様子についてお話しさせていただきます。

まず私が教室に参加しようと考えた理由ですが、私自身2年ほど前からロシア語を学んでいたため、こちらの教室であれば日本にいてもロシアの文化に触れる事が出来ると考えたからです。

次に教室へ初めて参加させていただいた日のお話ですが、私自身の心に強く印象に残っているのはエレナ先生の気遣いの素晴らしさです。教室に何度か参加させていただいた中で、私に限らず初参加か2回目以上の参加者に対して積極的に声をかけて、孤立しがちな環境にいる人をある程度人が集まっているグループに入れようといつも気遣い忘れませ

ん。そして、作品の作成作業中にも生徒の思いを汲んで助言し、生徒自身が頭の中で思い描く理想の作品を完成させるために知恵を貸してください。



蛇足ですが私の初めての作品は、5個型のマトリョーシカの絵付けを挑戦しましたが細かい模様などは入れずにとっても簡単な顔と服、そして手に籠を持たせたマトリョーシカを描きました。数回教室に通いようやく完成まで漕ぎ着けたので、一回の教室で完成させたい場合は起き上がりこぼしのマトリョーシカをおすすめします。

この教室に1年近く参加させていただいて改めて教室の雰囲気を使い返してみると、初めて教室に何ったときから他の参加者の方々も良い方ばかりで溶け込みやすいので、他の体験教室に参加された経験がない方にもおすすめ出来る教室です。

田町で今年のリーブラフェスタが延期になり、来年2月に開催されますが、27日(土)にマトリョーシカ教室も参加いたします。生徒さんや先生の作品の展示、実演、販売しており、体験もできますので、是非いらしてください。他にも、日頃リーブラで活動されている他団体の皆さんの展示や実演も見ることができ、どなたでも見学自由です。



お願い

NPO 日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。

振込先:郵便口座 00160-9-66486、加入者: 日口交流協会
連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail:nichiro@nichiro.org

Tel:03-5563-0626 Fax:03-5563-0752

お知らせ

●第71回マトリョーシカ絵付け教室

日時: 2020年10月11日(日) 13:30~16:00

場所: 田町リーブラ2階、造形表現室

会費: 3,000円(好きな教材1セット含む)

講師: 菅野エレナ

●ロシア語クラス再開

7月から事務所での対面クラスも再開しております。

水曜 初級2 (17:15~18:15) 初級1A-1 (19:25~20:25)

初級1A-2 (20:30~21:30)

金曜 入門 (18:30~19:30) 初級1B (19:30~20:30)

土曜 上級 (10:00~11:30)

オンラインクラスは初級、中級1、中級2、準中級のグループレッスンが4クラスあります。

*事務所では少人数で実施し、消毒液、パーテーション等用意して十分配慮はしておりますが、受講の皆様はマスクの着用、換気、冷房による熱中症、感染の予防にご協力お願いいたします。

●テーマ別ロシア語 「おもてなしロシア語」4

日時: 2020年10月4日、18日、25日(日) 13:30~16:00

講師: オクサーナ・ピスクノワ

授業料: 会員7,000円 一般8,000円

会場: 田町駅 男女平等参画センター「リーブラ」

●『ピアノリサイタルとトーク=ロシア音楽と留学の話』

坂本 里沙子 氏

日時: 11月7日(土) 12:00 ~ 14:00

会場: 松涛サロン「タカギクラヴィア」

参加費: 会員2,200円、一般2,500円、学生ロシア人2,000円

演目: チャイコフスキー「ドムカ」他4曲

モスクワの市民生活と新型コロナウイルス

西山 美久

モスクワ市で外出制限措置が解除されてから2ヶ月以上が経過した。この間、市内の飲食店、スポーツクラブ、美容サロン等の営業が再開され、市民生活は以前の活気を取り戻しつつある。ソビヤニン市長が「5月初旬の感染最盛期に比べると、新規感染者数は10分の1になった」と述べるなど状況は改善している。とはいえ、多くの市民が日常的に利用するショッピングモールやスーパーの他、公共交通機関の中では感染防止のためマスクと手袋の着用が義務付けられている。



例えば、地下鉄のホームや車内には1.5~2メートルのソーシャルディスタンスの確保を促すシールが貼ってある。朝夕のラッシュ時にソーシャルディスタンスをどのように保つべきなのか悩みどころではあるが、多くの乗客はマスクを着用し最低限の感染対策を施している。

(なお、手袋を着けている人は非常に少ない。いや、ほとんどいない!)。また路線バスでは、マスクと手袋による対策の他、3月下旬から車内での乗車券販売が停止されており、乗客と運転手の接触を極力避け感染拡大を防いでいる。マスク着用率は比較的高いが、手袋を着けた乗客は限りなくゼロ

に近い。ところで、公共交通機関の中で常にマスクを付けていても、狭い車内で少し咳き込んだだけで周りからジロジロ見られてしまう。さすがのロシア人もコロナで少しピリピリムードなのかもしれない。

多くのショッピングモールやスーパーでは、入口付近に立つ警備員が一人一人をチェックしマスクと手袋の着用を促している。入口ではそれらが無料で提供されており、うっかり付け忘れたとしても問題ない。また、消毒用のハンドジェルも店内に複数設置してあり、最低限の対策は可能である。床には地下鉄と同様にソーシャルディスタンス確保をお願いするシールも貼ってある。この他、一部のスーパーでは、感染対策として客と従業員を隔てる透明の亚克力板がレジに設置してある。従業員は客のマスク着用を確認した上で会計を行っており、感染防止に最大限努めている様子が伺える。

もともと、9月に入りモスクワ市の新規感染者数が少しずつ増えている。9月21日には915人の感染者が新たに確認され、累計感染者数は27万7408人を記録している。ソビヤニン市長は自宅待機(自己隔離措置)の再導入を否定しているが、感染者増加を目の当たりにしてかテレワークの継続を企業等に推奨している。最近では朝晩冷え込むようになり、体調も崩しやすくなっているところ、コロナを巡る今後の状況に注目が集まる。(北海道大学・モスクワオフィス)

~イルクーツク便り(8)~

留学生活7年を迎えて・4

阿部 耕大

皆さんこんにちは。イルクーツク国立大学修士課程2年の阿部耕大です。今回は7月から9月中旬までの授業や生活の様子について報告したいと思います。

7月17日に最後の試験が終了しました。正直な所、今回ばかりはオンライン体制の学習に感謝しています。理由は、普通に試験を受けた場合は間違いなく合格できなかった科目(когнитивная лингвистика)があったからです(笑)。無事受かった時は全身から緊張が抜けていく感覚を久しぶりに味わったほど。今では勉強したことすら覚えてません…。

そこから始まった夏休みは実質一か月半しかなくとても短く感じました。その時点ではカフェも店内営業は再開されておらず、映画館も閉鎖、イルクーツク州だけでも100人以上が日々コロナウイルスに感染していた状況だったこともあり近場を旅行する気にもなれず。結果大多数の学生が退去した寮の部屋で毎日ドラマ・映画鑑賞に時間を費やす廃人のような生活をしていたら夏休みが終わってました(笑)。個人的には面白いロシアの作品に出会えたので後悔はしていません

(ドラマならチキとмир!Дружба!Жвачка!はかなりおすすめです)。

そして先週から新学期が始まりました。外国人クラスは全てZoomでのオンライン授業が継続、ロシア人学生は教室授業との混合という形ではありますが一応大学は再開されました。私の授業は全て教室で行われていますが、多くのロシア人は今後来るであろう第二波到来に合わせてオンラインにま

た移行するとの見解。お昼休憩を2回に分けたり、入り口での体温チェックや布マスクの無料配布など大学も万全の?感染防止体制を整えているようですが、やはり人が多く、集団感染はいつ発生してもおかしくないです。そもそも学生はおるか先生すらマスクしてない人の方が多いです(笑)。

イルクーツクでは劇場以外の公共施設は営業が再開され、普段と変わらない日常が徐々に戻ってきています。2学年に無事進級でき、イルクーツクでの学生生活も残り1年もありませんが大学院を無事卒業できるか本当に不透明です。なぜなら授業が一気に難しくなったから…。今学期は外国人の為のロシア語教授法、語彙論、文法比較論と国際文化コミュニケーション(使用言語は英語)の4つですがどれも内容が専門的についていだけで大変です。本当に1年前に、思ったより簡単だったとかほざいてた自分が悲しいほど衰れて泣けてきます(笑)。

例えば文法比較論での授業の一例をあげますと、①Ты открыл окно?と②Ты открывал окно?の違い…。質問時に窓が閉まっているのはどちらだと思いますか?勘のいい方ならすぐに分かる初歩的なことだと思いますが、恥ずかしながら自分は特に意識せずに今までテキストに使用していました。ロシア語学習歴が長い程話すのは速くなりますが、完了体と不完了体の違いに気を使わなくなるのかもしれない。こういう基本的な所に目を向けなくなるんだな、と痛感しました。言語学の専門用語と格闘しつつ無事試験に合格できるよう頑張ります。(正解は②)

ロシア人の心のふるさとプスコフ

畔上 明

春を迎えるとモスクワでの会議が待っているという十数年前のこと、移動日として一日置いた先にサンクト・ペテルブルクでの仕事も入るや、その移動を夜行列車で繋いで真ん中の一日を有効に、しかも若き日の放浪癖がふつふつと頭をもたげてきて、ロシア西部の国境近くの古都へと足へ向けてみようとする間の一人旅を計画したのでした。

夕刻モスクワ発車した寝台列車は北北西に走ること12時間、茜色に染まった朝焼けの空が白んでくるや、白樺林の風景が徐々に家が散見され始めプスコフ駅に到着、1858年サンクト・ペテルブルク／ワルシャワ間に初めてロシアの鉄道が開通したときに造られたロシア最初の駅舎の一つ、美しく歴史的な建造物は1917年3月ニコライ2世がここで退位を表明したことで知られています。

しかし何よりも、古代ロシアの建国伝説「原初年代記(過ぎし歳月の物語)」に登場するオリガ公妃、まだキリスト教が受け入れられる以前の957年に最初に洗礼を受けた女性の出身地である「プスコフ」はロシア人のルーツを辿る民族の心のふるさとであり、プスコフ川とその本流であるヴェリーカヤ川との合流点のクレムリン(城塞)に向かって歩を進めることで、愈々旅どころが高まっていくのでした。

プスコフという地名は古代フィン語の森という言葉に由来しています。現在のエストニアやフィンランドに住むフィン人が元々住みついていたところへ、5-6世紀頃スラヴ人が入り、古代ルーシはヴァリヤグ(スウェーデン・ヴァイキング)が支配層として君臨、町の新市街と旧市街の間に石像が立つオリガ公妃もヴァイキングの末裔としてヘリガとも呼ばれていました。近年プスコフの古代層を発掘していく中で、スカンジナビアと共通するヴァイキングの遺跡を見出して

いると聞かされ古都へ来たことの興味は尽きません。

町に40以上ある教会はスターリン時代その活動が禁じられ、ペレストロイカの時代となって

漸く10ばかりの教会が復活、私が訪れた時には26の教会がロシア正教の宗教活動を行っているとのことでした。

その中心となるのが、レーニン広場に立つレーニン像が顔を向けているクレムリンの建築群、2019年にユネスコの世界文化遺産に登録されたその城壁内中央に聳えるトロイツキー(至聖三者)大聖堂です。

エストニアの国境まで50キロ、プスコフはバルトからヨーロッパ諸国にかけてのかつての交易の重要な町でもありましたが、リヴォニアやドイツ騎士団、スウェーデンによって攻め込まれた時にはロシアにとっての戦いの最前線の町でした。従って、時代を感じさせられる強固な要塞プスコフのクレムリンは、モスクワのクレムリン以上に砦と呼ぶに相応しい趣きがあります。クレムリンの壁の要所要所には木造りの円錐屋根の付いた円柱の塔が見られ、その特徴的な、今となっては牧歌的ともいえるロシアの景観のいにしへの美しさを脈々と伝え、往時を偲ばせてくれるのでした。

(「プロコ・エアサービス」シニア・アドバイザー)



大使館学校日本語クラスも再開

千葉 麻里

都立高校の授業が6月から始まり、授業日数をこなすために夏休みが3週間に削られている中、大使館学校の日本語クラスは3月からできず、6月からは夏休みに突入していた。事務所でのプライベートレッスンはコロナ禍の間も続けられたが、グループとなると難しかった。高校では時には手袋も必要、マスク着用は絶えず義務付けられたので、暑い毎日に若くて代謝の多い生徒たちは酸欠になりそうで気の毒だった。

9月に入るところに大使館から連絡があり、日本語、生け花、友禅の授業を再開したいという。生け花と友禅は夜なので、先生方と相談して電車でも十分気を付けるように話し合っ始めることになった。日本語は昼間なので問題なく、毎週広めの教室を使って始められた。

このコロナ禍の間に、ロシア語クラスも同様だが、日本語クラスもオンラインクラスを新たに実施することになった。今ではタシケントに住む生徒二人に教えている。今後は、このケースが増えることになるだろう。海外にいてもどこでも日本からの発信により日本語の勉強ができるというのは魅力に違いない。子どもたちには、日本の物語をアレンジして読ませてみたり、日々の出来事を話させたり、漢字の宿題を出したりしているが、直接、日本語で対話ができるのが楽しいようだ。

大使館の友禅クラスと日本語クラスは昨年度からの継続メンバーだ。友禅クラスの皆さんは、笠原先生も目を見張るほど上達が著しい。積極的に自分で教材を探してくる方もいるし、色の混ぜ具合も慣れてきている。

日本語の授業は、復習を兼ねながら新しい表現も入れて進めている。ロシアの生徒さんたちは多くの場合、宿題を出してほしいという。家でも勉強していることがよくわかる熱心でまじめな人が大半だ。こちらも毎回、テキストを見直したり新しい問題を工夫したり、と時間をかける。

JALが月に2回のみチャーター便に限り往復している状況で新しく赴任された方が少ないのかもしれない。が、徐々に新メンバーが加わることも予想される。通商代表部は入れ替わりがあるようなので、新しいメンバーが増えているかもしれない。来月からの再開が楽しみだ。

7月に縁あってハバロフスクの日本センターの方に声をかけていただき、現地の日本語学習者の方々とオンラインで話す機会を得た。それをきっかけにメールのやり取りも続いて来日の折には会う約束もできた。

今回、モスクワに帰国された生徒さんから、帰国後も勉強を続けたい、と言われた。オンラインにも慣れてきたのでぜひ続けましょう、と答えた。

コロナと共にデジタル変革を

大原 翔

コロナ禍の中で、企業はテレワーク、学校はオン・ライン授業と大きな変化ができています。従前の対面でのやり方比べてプラス・マイナス両面あるでしょう。コロナ禍が去った後も仕事や学習においてオン・ラインでの実施が減るにしてもなくなることはないと思われます。自宅に居ながら、仕事ができることや、授業を受けられるという利点もあります。

各種セミナーや講演会もZOOMと言われるオン・ラインが盛況です。当初は戸惑いもありましたが、徐々に多くの人が慣れてきたようです。会場の確保や準備などの作業の必要がなく、以前のセミナーに比べて労力も経費も軽減されたのではと感じられます。ところが、ある主催者に先日、聞いてみたところ、必ずしもそうでもないようです。

先日、日口間のフォーラムを視聴する機会がありました。モスクワおよび東京からそれぞれ数人のスピーカーが発言するもので、日本語・ロシア語の通訳も用意されていました。モスクワから出席者がいる場合、時差を考慮して、モスクワの午前10時(日本時間16時)開始となることが多いようです。

ロシア人のスピーカーが発表している時、同時通訳のように、画面の下に日本語字幕ができました。これはすごい、最近話題のAI、自動機械翻訳なのかとかって理解しておりました。

あとで主催者に確かめたところ、そうではありませんでした。曰く、海外とのオン・ラインでは、通信状態がかならずしも安定していない。講演会の途中で中断となる危惧があるので、その対策を念のため実施しているとのことでした。つまり、講演者がパワーポイント等に沿い発表する場合、事前にその発表を録画し、発言内容の翻訳を外国映画の字幕のように映像画面に貼りつけておき当日、再生する方法をとっていたと聞きました。質疑応答の部分のみはオン・ラインに

よるライブで実施されていました。

この種のセミナーや講演会の開始の際、主催者が日本とモスクワのスピーカーに通信状況を確認したり、視聴者が技術的な質問をしたり、予定していた開始時間が遅れることが少なくないようです。質疑応答においても質問と回答のあいだには、対面の場合と異なる「間」ができてしまい、間髪をいれずという訳にはゆかないようです。オン・ラインシステムの技術的な改善も速いスピードでなされている由ですし、それを使用する視聴者自身も習熟するにつれ、違和感は少なくなってくるのだらうと思います。

機械自動翻訳の技術の発展もここ数年は著しいと聞きます。以前、言語の文法に沿った機械翻訳技術から、ビッグデータを活用した自動翻訳に開発は移行しており、翻訳の精度も急速に進歩しているとのこと。この技術の開発により、今後、外国語教育にも大きな変革をもたらすのではないかと想像しています。まだ精度が十分ではありませんが、日本の公的機関NICT(情報通信研究機構)が、無料でVoiceTraという機械翻訳を公開しています。ご関心あれば以下のWEBをご覧ください。<https://voicetra.nict.go.jp/>

コロナ禍で、国内の行政組織のデジタル化の遅れが問題視されました。行政組織のみならず、従前より、ロシア人からも、日本全体のデジタル化の遅れが指摘されてきたことでした。科学技術の発展した日本なのに、何故デジタル化がこんなに遅れているのかと苦情を、訪日したロシア人から何度となく聞かされていました。遅まきながら、デジタル化の促進を新内閣が進めると打ち出しており、期待するところです。もっとも筆者自身は、アナログから脱却できていないことを、最後にこっそり、告白しておきます。

「聖書への書き込み」の謎を解くフィリキンさんの長い「旅」

倉田 有佳

9月半ば、函館のハリストス正教会の児玉神父から、“Надпись на Евангелии (聖書への書き込み)”というロシア語の分厚い本が届けられた。アレクサンドル・フィリキンさんが10年かけて完成させたもので、今年8月にウラジオストクで刊行された。



ペテルブルクのエリート銀行マンだったフィリキンさんの人生を大きく変えたのは、2008年、ウラジオストク出張の際に立ち寄った古書店で見つけた一冊の「聖書」(1905年、出版地は東京)との出会いだった。そこにはロシア語で「日本で捕虜の時ニコライ主教からの贈り物 1905年8月15日センダイ市 Ю. ミハイロフ」、そしてユリヤ・ヴラジーミロヴナ宛ての詩と「1906年10月26日アルハンゲリ」という手書きの書き込みがあった。この書き込みの謎を解くため、フィリキンさんはウラジオストクへの移住を決めた。

約400頁に及ぶ大著を前に著者は尻込みしたが、読み始めると気が付かぬうちに惹き込まれていった。というのも、フィリキンさんの推理や謎解きが時系列で具体的に記されているため、読み手も謎解きの旅を共にしている感覚を覚えるからだ。例えば、ペテルブルクのロシア国立海軍文書館に質問状を送ってもなかなか返事が来ないため、ウラジオストクの歴史家ミーズィさんの助けを借り、太平洋艦隊司令部博物館館長を通じて手紙を送り直す。だが、今回も待てど暮らせど便りはない。そんなある夜、フィリ

キンさんは、「聖書は他の本と一緒に本棚に並べてはならない。聖なる隅に置きなさい」、という夢を見る。さっそくお告げ通りに実行すると、二日後、待望の回答が届いた。しかもこの回答は頭文字が「Ю (Yu)」ではなく「Д (D)」の可能性を示唆した。聖書の持ち主は、スヴェトラナ号の機関士として日露戦争に参加した海軍士官ドミートリ・フィリップovich・ミハイロフ(1881年生)だ! フィリキンさんは確信した。

回答から3日後、アルセニエフ博物館学芸員の論文を読んでいると、Д. ミハイロフの品々が同博物館に所蔵されているとの一文が目にとまる。館長に依頼し、1990年代に子孫から寄贈されたミハイロフの若き日の写真や手紙などを見せていただく。書き込みが実在の人物へと転じた瞬間だ。さらに、寄贈当時の住所を頼りに、ウラジオストクに暮らす孫にも会えた。ユリヤなる女性、ウラジオストクの古書店に聖書があった理由など、フィリキンさんの疑問は解けていく。

だが「旅」は続く。ミハイロフの故郷オネガ(アルハンゲリ斯克州)、ペテルブルク・モスクワ・ハバロフスク・ウラジオストクの文書館、捕虜の信仰慰安のために聖書を贈ったニコライ神父の拠点・東京、ミハイロフが捕虜として収容された仙台など、研究調査の旅である。

長い「旅」の終着点、本の出版にこぎつけたフィリキンさんは、「ついに自分のミッションをやり遂げた」と語る。

(ロシア極東連邦総合大学函館校教授)